

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和元年 7 月】

■ 調 査 概 要 (データ対象期間：令和元年 7 月 1 日～7 月 3 1 日)

○調査期間：令和元年 7 月 2 6 日～8 月 2 2 日

○調査対象：市内中小企業 2 0 0 企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業 2 4 企業、製造業 2 1 企業、卸売業 1 0 企業、小売業 3 1 企業

飲食業 1 6 企業、サービス業 4 8 企業 (運輸、不動産仲介業を含む)

<合計 1 5 0 企業>

○調査項目：7 月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう 3 ヶ月の業況見通し (DI 値を集計)

(注) DI (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともに マイナス幅の縮小

1. 業況判断

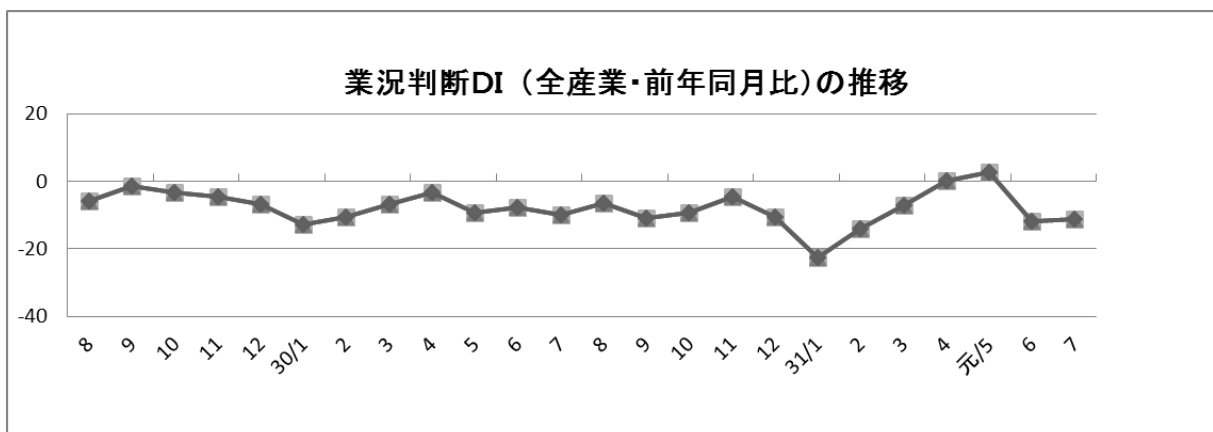
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲11.9）よりマイナス幅が0.6ポイント縮小し、▲11.3となった。業種別では、サービス業はプラスからマイナスに転じ、建設業は0からマイナスになった。製造業、飲食業はマイナス幅が縮小し、卸売業、小売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲15.3）よりマイナス幅が6.0ポイント縮小し、▲9.3となった。業種別では、サービス業はプラスから0に、卸売業は0からマイナスになった。製造業はマイナスからプラスに転じ、建設業はマイナスから0になった。飲食業はマイナス幅が縮小し、小売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	12.7 (14.6)	63.3 (58.9)	24.0 (26.5)	▲ 11.3 (▲ 11.9) ↗	18.0 (13.2)	54.7 (58.3)	27.3 (28.5)	▲ 9.3 (▲ 15.3) ↗
建設業	12.5 (13.0)	70.8 (74.0)	16.7 (13.0)	▲ 4.2 (0.0) ↘	20.8 (4.3)	58.4 (74.0)	20.8 (21.7)	0.0 (▲ 17.4) ↗
製造業	23.8 (22.7)	47.6 (40.9)	28.6 (36.4)	▲ 4.8 (▲ 13.7) ↗	33.3 (18.2)	42.9 (54.5)	23.8 (27.3)	9.5 (▲ 9.1) ↗
卸売業	10.0 (23.1)	70.0 (46.1)	20.0 (30.8)	▲ 10.0 (▲ 7.7) ↘	20.0 (30.8)	40.0 (38.4)	40.0 (30.8)	▲ 20.0 (0.0) ↘
小売業	6.5 (10.3)	61.2 (55.2)	32.3 (34.5)	▲ 25.8 (▲ 24.2) ↘	6.5 (13.8)	51.6 (37.9)	41.9 (48.3)	▲ 35.4 (▲ 34.5) ↘
飲食業	12.5 (0.0)	62.5 (52.9)	25.0 (47.1)	▲ 12.5 (▲ 47.1) ↗	12.5 (0.0)	56.2 (47.1)	31.3 (52.9)	▲ 18.8 (▲ 52.9) ↗
サービス業	12.5 (17.0)	66.7 (68.1)	20.8 (14.9)	▲ 8.3 (2.1) ↘	18.8 (14.9)	62.4 (74.5)	18.8 (10.6)	0.0 (4.3) ↘

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

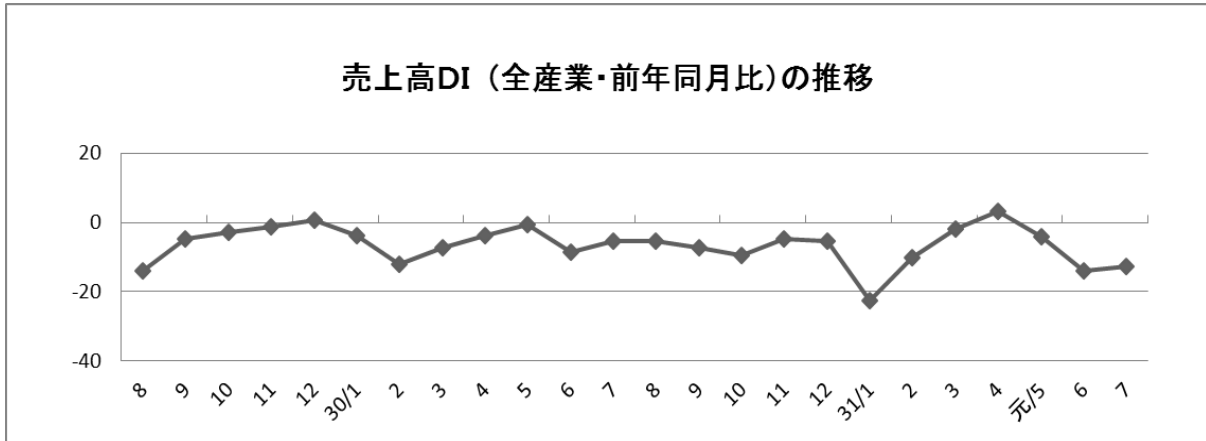


2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲13.9）からマイナス幅が 1.3 ポイント縮小し▲12.6 となった。業種別に見るとサービス業はプラスからマイナスに転じた。建設業、製造業、飲食業はマイナス幅が縮小し、卸売業、小売業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
全 体	▲ 5.3	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 4.7	▲ 5.4	▲ 9.4	▲ 22.5	▲ 10.0	▲ 1.9	3.3	▲ 4.0	▲ 13.9	▲ 12.6
建設業	4.3	0.0	16.0	8.7	14.3	0.0	▲ 10.0	▲ 20.0	8.4	▲ 8.7	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.3
製造業	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 16.6	▲ 19.1	▲ 36.0	▲ 10.0	10.0	4.4	▲ 4.8	▲ 22.8	▲ 4.8
卸売業	▲ 18.2	▲ 30.0	▲ 54.5	▲ 7.2	▲ 38.5	▲ 21.4	▲ 40.0	▲ 26.7	▲ 15.4	0.0	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 40.0
小売業	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 10.0	▲ 26.7	▲ 13.4	▲ 6.0	▲ 29.6	▲ 12.0	▲ 12.9	▲ 3.6	▲ 14.3	▲ 20.7	▲ 25.8
飲食業	▲ 61.1	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 5.6	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 22.2	11.1	0.0	▲ 47.1	▲ 12.5
サービス業	15.4	2.1	0.0	2.3	10.0	▲ 9.5	▲ 6.4	10.5	6.6	10.8	16.7	6.4	▲ 4.2

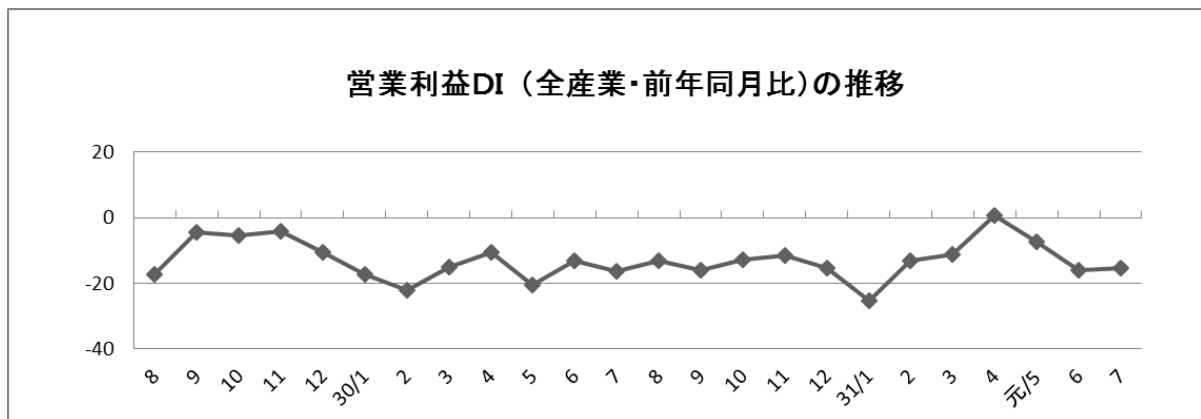


3. 営業利益D I（前年同月比）

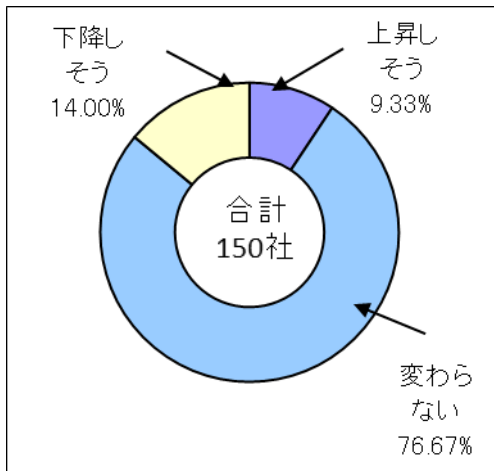
○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲15.9）よりマイナス幅が 0.5 ポイント縮小して、▲ 15.4 となった。業種別に見ると、サービス業はプラスからマイナスに転じた。建設業、卸売業、小売業、飲食業はマイナス幅が縮小し、製造業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
全 体	▲ 16.5	▲ 13.1	▲ 16.0	▲ 12.7	▲ 11.4	▲ 15.3	▲ 25.2	▲ 13.3	▲ 11.2	0.7	▲ 7.4	▲ 15.9	▲ 15.4
建設業	▲ 17.4	▲ 22.7	▲ 12.0	▲ 13.1	▲ 4.7	0.0	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 4.2	▲ 4.4	▲ 13.1	▲ 17.4	▲ 16.7
製造業	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 11.1	▲ 23.8	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 20.0	8.7	▲ 19.1	▲ 18.2	▲ 19.0
卸売業	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 36.3	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 7.1	▲ 40.0	▲ 6.7	▲ 7.7	25.0	8.3	▲ 15.4	▲ 10.0
小売業	▲ 46.2	▲ 35.4	▲ 20.0	▲ 36.6	▲ 20.0	▲ 24.2	▲ 44.4	▲ 12.0	▲ 25.8	▲ 14.2	▲ 10.7	▲ 27.6	▲ 22.6
飲食業	▲ 66.6	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 35.3	▲ 41.1	▲ 27.8	0.0	▲ 5.5	▲ 47.1	▲ 18.8
サービス業	1.9	▲ 2.1	▲ 6.4	▲ 7.0	4.0	▲ 14.3	▲ 6.4	2.1	4.4	2.1	▲ 2.1	4.3	▲ 8.3

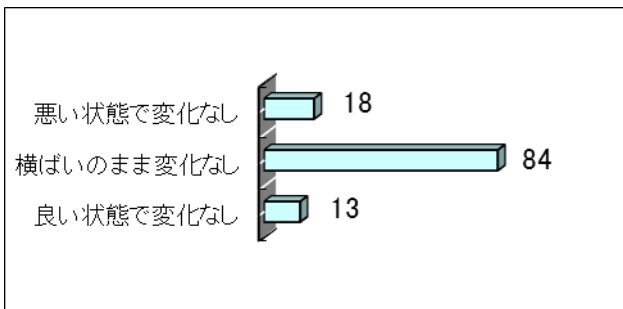


◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○令和元年8月～10月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ3.25ポイント減少し9.33%、「下降しそう」が2.74ポイント増加し14.00%となった。業種別の見通しDIは建設業(8.4)、製造業(▲9.5)、卸売業(▲10.0)、小売業(▲16.1)、飲食業(0.0)、サービス業(▲2.1)であった。

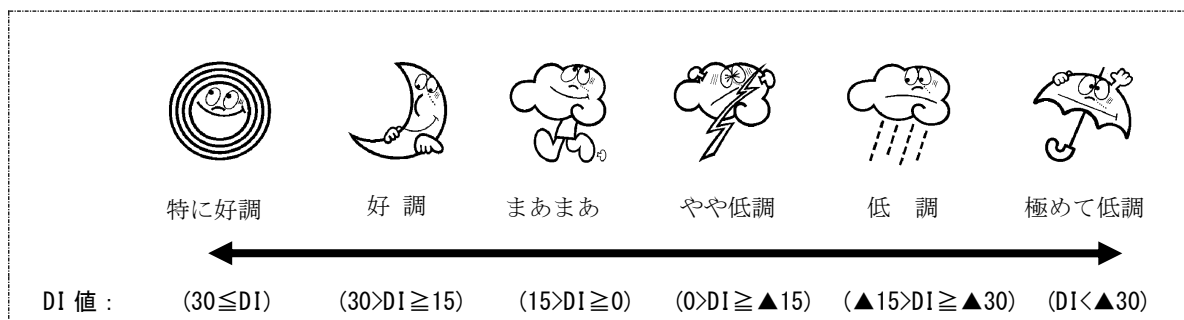
➡「上昇しそう」では「公共事業の発注のため」「消費税増税に伴う駆け込み需用のため」「お盆以降の小口受注が入ってきているため」「公共工事が今の所安定しているため」(建設業)「10～12月の稼ぎどきまで静かに我慢のときのため」「新規品産立上げのため」(製造業)「夏祭り、お盆に期待するため」「夏真っ盛りで、暑気払いなど宴会の機会が多くなるため」「夏休み、お盆、秋の観光があるため」(飲食業)「現在仕掛中のプロジェクトについて回収見込みがあるため」「観光シーズンのため」「既存ユーザーより新規契約の仕事が入ったため」「10月からの消費税増税で、車両販売の駆け込み需要が増すため」(サービス業)といった声が寄せられた。



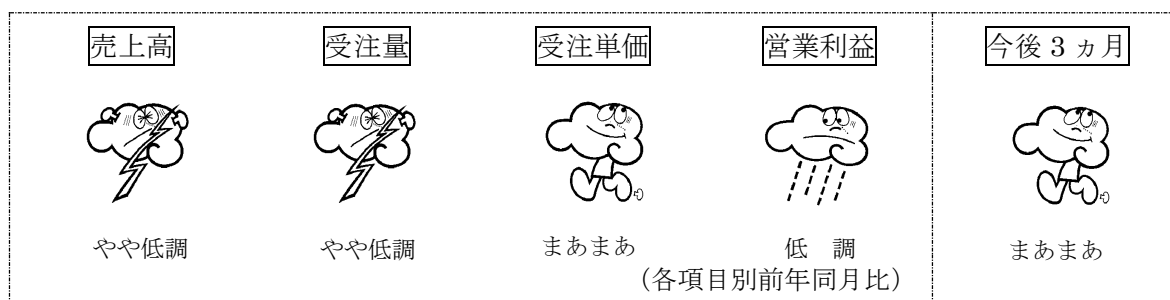
➡「下降しそう」では「6月、7月は非常に良かったが、今後は受注量、価格とも少し低調になるため」「大きな物件が決まらないため」(建設業)「消費税が10%にアップする事による駆け込み需要はあっても、長期的には下降するため」「米中貿易摩擦のため」「中国の減速の影響が出てきそうのため」(製造業)「輸出関係の客先の影響があるため」(卸売業)「消費税増税による買い控えのため」「世界情勢が不安定のため」「消費税が10%になるため」(小売業)「団体客は約7割程度の予約は入るが、一般の客はゼロに等しいため」「消費税増税による買い控えがありそうのため」(飲食業)「7月の売上高が良すぎたため」「売上減のため」「職業訓練受講者数が定員充足で頭打ちとなり、これ以上の増加が見込めないため」「イベントが昨年に比べて少ないため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
売上高	4.3	0.0	16.0	8.7	14.3	0.0	▲10.0	▲20.0	8.4	▲8.7	▲26.1	▲13.1	▲8.3
受注量	13.1	9.1	12.0	▲8.7	9.5	13.7	▲10.0	▲12.0	▲16.7	▲8.7	▲8.7	0.0	▲12.5
受注単価	0.0	4.6	8.0	▲4.4	4.8	4.6	5.0	4.0	0.0	0.0	▲4.3	▲8.7	0.0
営業利益	▲17.4	▲22.7	▲12.0	▲13.1	▲4.7	0.0	▲15.0	▲16.0	▲4.2	▲4.4	▲13.1	▲17.4	▲16.7
見通し	8.7	9.1	12.0	4.4	4.8	13.7	10.0	12.0	▲4.1	13.1	13.0	4.3	8.4

<経営者の目・見方・e t c>

- 総合建設
 - ・長野県の公共事業の失格基準が8月公告分から2%上がる。それによって松本市も追随するため、受注単価が改善される。
- 建設業
 - ・技術者及び技能者の人手不足が続いている。
- 建築工事
 - ・厳しい状況に変わりはないが、お盆明けからの小口受注が入りだし期待している。
- 土木工事
 - ・第一四半期が予想外に厳しかった。7、8、9月でどこまで挽回できるか不安がある。
- 管工事
 - ・年平均の売上が予測できないのが建設業の悩みである。企業努力での受注量には限界があるので、前年を参考に受注をしている。
- 鉄工
 - ・高力ボルトの入手難については、多少改善されたと聞くが未だに不透明な状況である。

鉄工

・来年に迫った東京オリンピック関係の工事案件が、我々の工事については終わりつつあり、また消費税増税の影響なのか新規案件がだいぶ低調になっている感じである。来年9月のパラリンピック終了までは、ますますこの傾向が顕著になる前提で今後の営業活動を考えていかなければと思う。

・受注が少ない状態が続いている。来月からに期待する。

石材

・消費税増税を控えているためか警戒心が強く受注が振るわない。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
売上高	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 16.6	▲ 19.1	▲ 36.0	▲ 10.0	10.0	4.4	▲ 4.8	▲ 22.8	▲ 4.8
受注量	4.6	13.0	▲ 4.0	8.7	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 40.0	▲ 5.0	0.0	8.7	▲ 14.3	▲ 9.1	▲ 4.8
受注単価	▲ 13.7	▲ 13.1	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 16.7	▲ 9.5	▲ 16.0	▲ 20.0	▲ 10.0	0.0	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 4.8
営業利益	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 11.1	▲ 23.8	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 20.0	8.7	▲ 19.1	▲ 18.2	▲ 19.0
見通し	0.0	8.7	▲ 4.2	▲ 8.7	▲ 11.1	▲ 14.3	12.0	0.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 14.3	0.0	▲ 9.5

<経営者の目・見方・e t c >

印刷

・印刷用紙の値上がりに伴う値上げ交渉に対して、きちんと理解を示してもらえるところと、そうでないところとの差が激しい。中小企業同士では相互理解に至って値上げを了承してもらおうケースが多いが、中小企業との関わりが希薄な組織や団体、各種学校などでは材料費の値上げに伴う交渉は進みにくく、業者切り替えによる実質的デフレが継続してしまう。材料費上昇時に「安くすれば買う」と言う理不尽な経済原理を振りかざすのには辟易する。

・印刷(頁物)業界としては、7、8月は出版業界が低調のため動きが弱い。

金属塗装

・米中貿易摩擦の影響で、輸出親企業よりの受注が減少していて受注売上が落ちている。

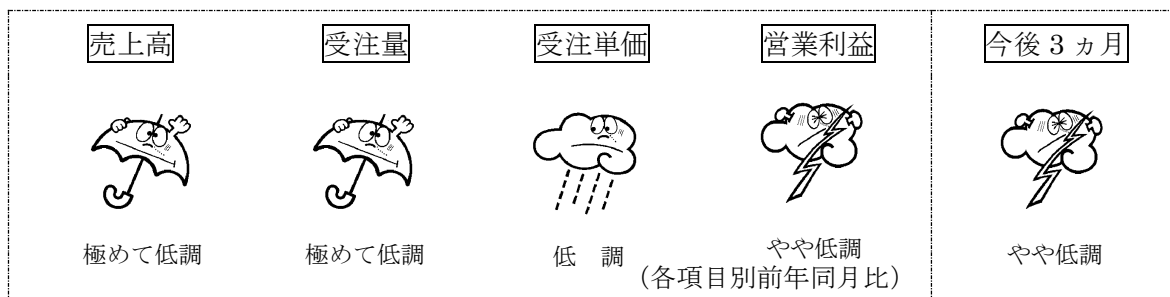
紙器

・あまり先は見えないが、受注があったため忙しかった。

酒類

・梅雨が長引き、冷夏の影響もあり、飲料は全般的に動きが鈍かった。清酒については、夏向きの冷酒やお中元ギフトなど例年並みに推移した。但し、直近の一年間の出荷量は、長野県全体でも95%というように、人口減少、高齢化、趣向の変化など、さまざまな要因により下降気味だ。消費税増税に向かって対策も必要である。

3. 卸売業



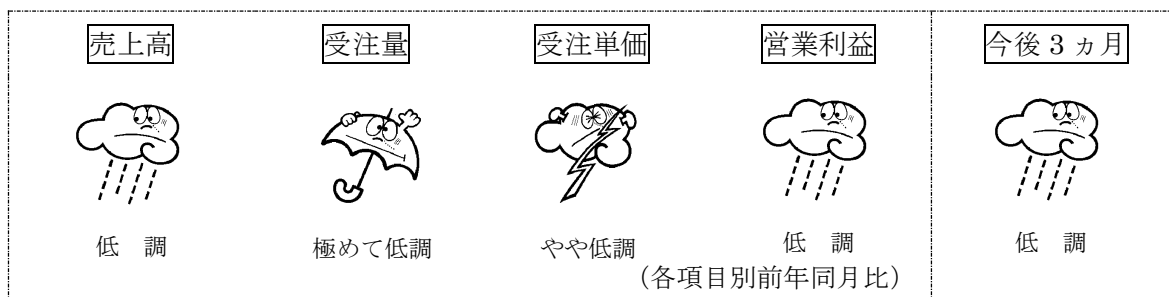
【項目別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
売上高	▲ 18.2	▲ 30.0	▲ 54.5	▲ 7.2	▲ 38.5	▲ 21.4	▲ 40.0	▲ 26.7	▲ 15.4	0.0	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 40.0
販売客数	0.0	▲ 10.0	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 15.4	▲ 14.3	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 7.7	0.0	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 30.0
販売客単価	▲ 9.1	10.0	0.0	14.3	▲ 7.7	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.4	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0
営業利益	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 36.3	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 7.1	▲ 40.0	▲ 6.7	▲ 7.7	25.0	8.3	▲ 15.4	▲ 10.0
見通し	0.0	10.0	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 14.3	▲ 6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	7.7	▲ 10.0

<経営者の目・見方・etc>

- 土産品
 - ・天候の影響もあり土産品の動きが悪い状況である。10月からの消費税10%への対応も、夏の商品動向を見据えた在庫調整を検討したい。
- 金属製品
 - ・首都圏中心に建築案件は依然好調に推移しているが、米中貿易問題の長期化により、今後の不透明感が漂い、設備投資に陰りが出てきている。
- 機械工具
 - ・ここまで色々な影響を比較的少なく受けてきたが米中貿易摩擦の影響がジワジワときている。
- 魚介類
 - ・レジの入れ替えをしたいがメーカーのレジ自体が品切れ状態で、各社期日までにできるか心配だ。

4. 小売業



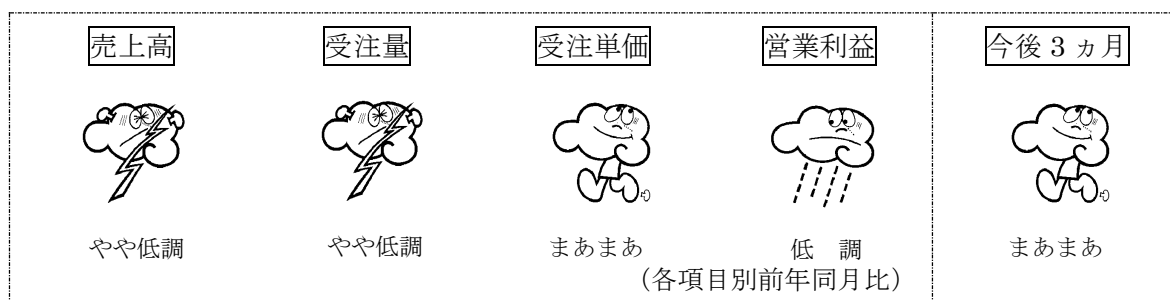
【項目別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
売上高	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 10.0	▲ 26.7	▲ 13.4	▲ 6.0	▲ 29.6	▲ 12.0	▲ 12.9	▲ 3.6	▲ 14.3	▲ 20.7	▲ 25.8
販売客数	▲ 38.5	▲ 38.7	▲ 23.3	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 24.2	▲ 37.0	▲ 16.0	▲ 12.9	3.6	▲ 3.6	▲ 31.1	▲ 35.5
販売客単価	▲ 7.7	▲ 12.9	▲ 3.3	▲ 13.4	▲ 3.4	0.0	▲ 14.8	4.0	▲ 16.1	▲ 7.2	▲ 7.2	▲ 20.7	▲ 6.5
営業利益	▲ 46.2	▲ 35.4	▲ 20.0	▲ 36.6	▲ 20.0	▲ 24.2	▲ 44.4	▲ 12.0	▲ 25.8	▲ 14.2	▲ 10.7	▲ 27.6	▲ 22.6
見通し	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 9.1	0.0	4.0	6.4	3.5	▲ 10.7	▲ 17.3	▲ 16.1

<経営者の目・見方・e t c>

- 印章
 - ・平日、特に月曜日に夫婦二人連れの旅行客を多く見かけた。
 - ・法人需要が停滞してきている気がする。
- 印章・刃物研ぎ
 - ・気候が不順で客足が減少気味である。
- 住宅機器
 - ・7月に入り、急に動いてきた。
- 生鮮食品
 - ・中旬まで天候が不順で静かであった。その後の盛り返しは去年より悪かった。毎日暑くなるよう8月に期待したい。
- 洋菓子
 - ・夏季は比較的落ち着いているので、従業員への休みを増やしている。同時に冬季の繁忙期に向けて着々と準備をしている。
- パン
 - ・前半の涼しい時期にしっかり売り上げることができた。これまでの経営の形にとられることなく、柔軟に対応できる強い体制を作ることが急務である。
 - ・天候が不順であったが、パンにとっては気温が高くない昨年より良かった。しかし観光地の動向は悪かった。
- ショッピングセンター
 - ・梅雨明けが遅く、衣料品の消費動向に影響を与えた。セールにおいても欲しい物だけを欲しいタイミングでという消費者のマインドの中で以前に比べるとパワーダウンの感は否めない。
- 陶磁器
 - ・店内催事が好評で売上は久し振りに前年を大きく上回った。
 - ・参議院選挙は波乱もなく10月の消費税増税に向かって社会は大きく動き出した。
 - ・キャッシュレス決済に伴うポイント還元への登録やスマホ決済の導入、プレミアム商品券の対応などの作業が本格化し、何かと煩雑である。
- 婦人服
 - ・6月からセールの波に押されて、前半のセールの波はなかった。後半は暑さがあるセールを売り切る店内に切り替えた。店の中心にセールを集め表示も「最終セール」にした。何とか前年並で終わる事ができた。
- 燃料
 - ・人手不足である。

5. 飲食業



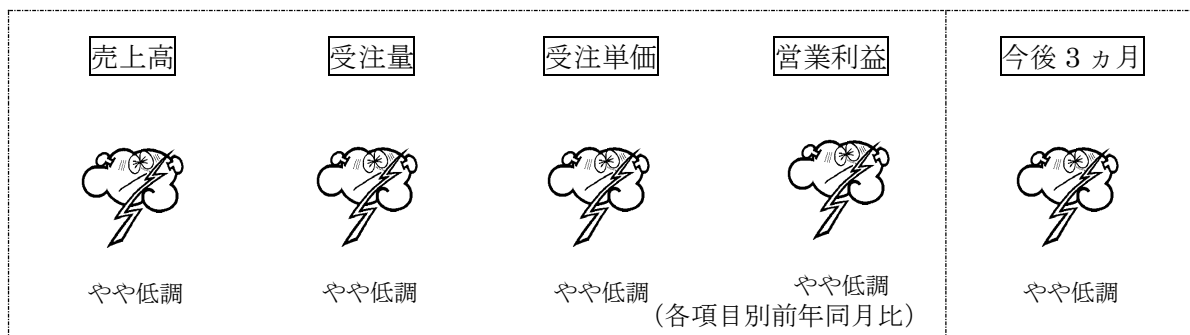
【項目別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
売上高	▲ 61.1	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 5.6	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 22.2	11.1	0.0	▲ 47.1	▲ 12.5
販売客数	▲ 72.2	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 11.7	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 23.6	▲ 41.1	▲ 16.7	11.1	5.5	▲ 47.1	▲ 12.5
販売客単価	▲ 33.3	▲ 5.3	▲ 36.8	▲ 5.9	▲ 27.8	▲ 16.6	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 27.7	0.0	▲ 5.5	▲ 23.5	0.0
営業利益	▲ 66.6	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 35.3	▲ 41.1	▲ 27.8	0.0	▲ 5.5	▲ 47.1	▲ 18.8
見通し	0.0	▲ 15.8	▲ 10.5	17.6	11.1	▲ 11.1	0.0	11.7	▲ 11.1	0.0	▲ 5.5	11.7	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

料理	<ul style="list-style-type: none">・曇天から一息の間もなく猛暑と世情を表すかの如く、美味しいお酒と肴を楽しむ常連さんが大切である。・昨年より涼しい夏だったのに人出が少ない。やはり地方の景気の悪さはハンパでない。夏、お盆の予測がつかない。GWで消費し過ぎているのか、まだお盆にお金が出る余裕があるのだろうか。
郷土料理	<ul style="list-style-type: none">・高単価のメニューの注文が伸びて売上がアップした。新聞のコラムに店を記載して下さった方がいて、来客増となりありがたい月であった。
中華料理	<ul style="list-style-type: none">・6月の暇がうその様に7月に入った途端忙しくなった。・消費税増税前にドリンクの値段を上げた。食事の値段も上げるつもりである。宴会コースの値段に関しては思案中である。・Pay、Payを導入したがびっくりする程利用は無い。・人手不足、調理時間の過多による店の温度上昇などの理由で冷やし中華をやめた。今のところ悪影響はない。
創作料理	<ul style="list-style-type: none">・客が動かない。消費税増税、連休等の影響だろうか。財布の紐が固い。5、6、7月と3ヵ月続いて悪かった。8月もお盆はあるが期待はできない。
食堂	<ul style="list-style-type: none">・暑くなるとお客さんは、冷房の効いた大型商業施設に行ってしまう、周辺のお店は閑散として売上も減少してしまう。
居酒屋	<ul style="list-style-type: none">・冷夏のためビールの在庫が少なく客単価アップにはならなかった。
寿司	<ul style="list-style-type: none">・参院選に加えて、予想外に梅雨が長引いた事で観光客を含めた全体的な客足も鈍いと感じた。例年とは全く違う7月の動向であった。しかしながら、梅雨明け後は例年以上の来店となり8月を含めて今後の動向に期待したい。・連日暑い日が続く時は、焼肉か鰻料理のスタミナ食が一番である。
そば	<ul style="list-style-type: none">・消費税増税や老後に2,000万円が必要と不安な日々を過ごす中、無駄な出費はせず必要最低限の消費となり国民の不安もより厳しさを増し経済も停滞していくのではと心配である。・梅雨は暇なので、もう少し早く梅雨があけてほしかった。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	30年7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月
売上高	15.4	2.1	0.0	2.3	10.0	▲9.5	▲6.4	10.5	6.6	10.8	16.7	6.4	▲4.2
販売客数	1.9	▲8.4	▲4.2	▲7.0	0.0	▲9.5	17.0	2.1	4.4	4.3	0.0	4.3	▲8.3
販売客単価	5.8	4.2	4.2	7.0	4.0	0.0	▲2.1	6.2	6.7	▲4.4	2.1	2.1	▲6.2
営業利益	1.9	▲2.1	▲6.4	▲7.0	4.0	▲14.3	▲6.4	2.1	4.4	2.1	▲2.1	4.3	▲8.3
見通し	0.0	6.2	4.2	▲7.0	▲4.0	▲2.3	10.6	16.7	8.9	4.3	8.4	6.4	▲2.1

<経営者の目・見方・etc>

自動車整備、 板金塗装	・昨年比3割減と業績がとても悪かった。最近では長期の休みが多く、ユーザーの懐も大変なように感じる。この先も多くの休みがあり、仕事への悪影響は避けられないようだ。
ソフトウェア	・相変わらずの人手不足の状況である。システム化投資に関してできれば期ごとに要件が平準化できれば良いと思う。加えて消費税率と課税方法の変更が目が行きがちだが、サプライチェーンを含めた運用フローの見直しを提言できるような顧客への社内体制づくりも必要である。
観光旅館	・梅雨明けが7月末になったため日本人客の出足は悪かった。一方、外国人客は相変わらず、世界各地より多くおいで頂いたのでその分の補填となった。以前は夏にあまり来なかった台湾のお客様も多く、ヨーロッパではフランスのお客様に大勢来て頂いている。
温泉旅館	・松本市内でのイベントも最多で宿泊も多く、中京、大阪方面からのお客様が多い。
旅館	・梅雨明けが遅く雨も多く心配したが、客足は減少しなかった。
宿泊	・梅雨明けが遅く宿泊者は伸びたものの、焼岳の状況も多少の影響があるものと思われるが、山行者、観光客とも少なかった。北アルプス、南部、北部共に少なかったとの情報があった。
ホテル	・7月は宿泊、宴会共に好調であった。 ・7月28日に松本駅前に153室のホテルがオープンした。続いて11月には300室のホテルがオープン予定だ。11月からの閑散期が心配である。
リラクゼーション	・少し客足が停滞気味である。
写真	・証明写真のお客様(特にパスポート)が多数来店してくれた。
教育業	・7月後半から夏休みが始まり、帰省もあり新しい傾向は無さそうだ。ただ英検の勉強を夏休みに集中したい生徒さんが増加している。

ネイル	<ul style="list-style-type: none"> ・7月は大阪でアジアネイルフェスティバルが開催された。ネイルセミナーをはじめ、新商品の販売や、ネイルコンテストが開かれ、多くのネイリストが会場に集まり、盛り上がっていた。
測量・建設コンサルタント業	<ul style="list-style-type: none"> ・発注平準化の取り組みにより例年だと仕事が薄い時期に受注が伸びて良かった。 ・低入札価格調査については、きちんと積算しても低入札になってしまう場合もある。書類作成が大きな負担になるので見直してほしい。
ビル・住宅総合メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足である。
ホームクリーニング・リネンサプライ	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格が安定していることは、会社経営にとってもプラスである。